

[野菜部門 平成 30 年度 指導参考資料]

事項名	夏秋ミニトマトにおける「サンチェリーピュアプラス」、「サマー千果(TTM-117)」の収量性		
ねらい	<p>夏秋ミニトマトでは施肥管理が容易で収量性が高い「サンチェリーピュア」が主力品種となっているが、果実の大きさ等が異なる品種が求められている。</p> <p>そこで、赤色系ミニトマト品種の「サンチェリーピュアプラス」と「サマー千果(TTM-117)」について、「サンチェリーピュア」と同様の施肥管理で栽培した場合の収量性を明らかにしたので参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 「サンチェリーピュアプラス」の収量性</p> <p>(1) 可販果の1果重は「サンチェリーピュア」より2g～4g程度軽く推移する。</p> <p>(2) 総可販果数は「サンチェリーピュア」より2割～3割程度多い。旬別の可販果数は8月上中旬が3割程度多く、その他の期間はやや多く推移する。</p> <p>(3) 総可販果収量は「サンチェリーピュア」と同程度である。旬別の可販果収量は「サンチェリーピュア」と同程度に推移する。果重別の可販果収量は8月上旬までは15g～20gの果実が多く、8月中旬以降は10g～15gの果実が多い。</p> <p>(4) 裂果の発生は「サンチェリーピュア」より少ない。</p> <p>2 「サマー千果(TTM-117)」の収量性</p> <p>(1) 可販果の1果重は「サンチェリーピュア」より2g～3g程度重く推移する。</p> <p>(2) 総可販果数は「サンチェリーピュア」より1割程度少ない。旬別の可販果数は8月上中旬が3割程度少なく、その他の期間は同程度で推移する。</p> <p>(3) 総可販果収量は「サンチェリーピュア」と同程度かやや多い。旬別の可販果収量は「サンチェリーピュア」と比較して8月上中旬が2割～3割程度少なく、8月下旬が2割程度多い。果重別の可販果収量は8月中旬までは20g～25gの果実が多く、8月下旬以降は15g～20gの果実が多い。</p> <p>(4) 裂果の発生は「サンチェリーピュア」と同程度である。</p>		
期待される効果	夏秋ミニトマト産地において、「サンチェリーピュアプラス」、「サマー千果(TTM-117)」を導入する際に活用される。		
利用上の注意事項	<p>1 本試験は、側枝2本仕立ての自根苗を第1花房開花始めの5月20日頃に定植して、Nターン誘引により栽培し、10月末まで収穫して得られた結果である。</p> <p>2 「サンチェリーピュアプラス」は、栽培終了時の茎長、収穫段数とも「サンチェリーピュア」と同程度である。</p> <p>3 「サマー千果(TTM-117)」は「サンチェリーピュア」と比較して葉の展開速度が遅いため、栽培終了時の茎長が50cm以上短く、収穫段数が1～2段程度少ない。</p>		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所施設園芸部 (0172-52-2510)	対象地域及び経営体	県下全域のミニトマト 作付経営体
発表文献等	平成 28～29 年度 試験成績概要集 (農林総合研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

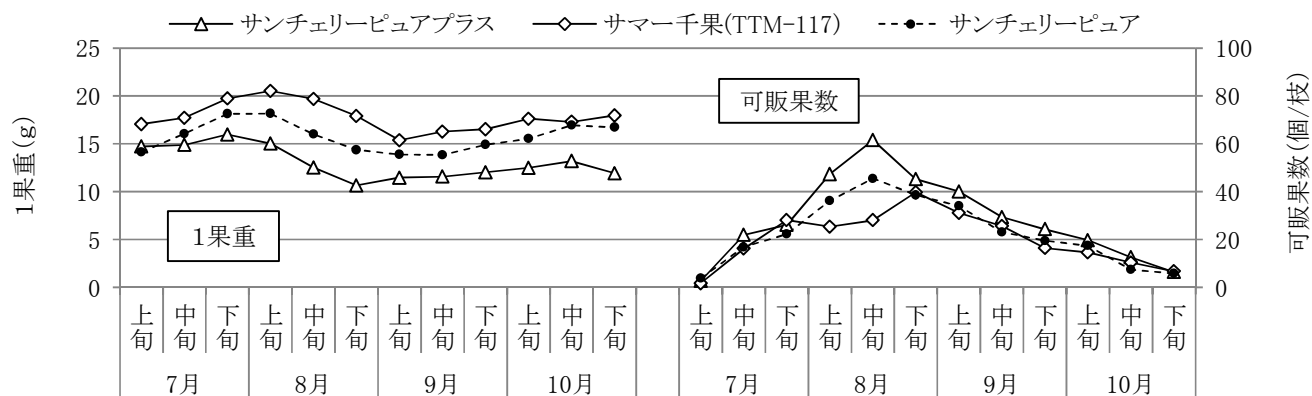


図1 旬別の可販果数と可販果の1果重(平成28、29年青森農林総研)

(注) 1 平成28年、平成29年の平均値
 2 総可販果数は、「サンチェリーピュアプラス」が337個/枝、「サマー千果(TTM-117)」が246個/枝、「サンチェリーピュア」が270個/枝

表1 収量性及び栽培終了時の生育 (平成28、29年 青森農林総研)

年次	品種名	可販果					総果数 (個/枝)	裂果 発生率 (%)	茎長 (cm)	収穫 段数 (段)
		収量(kg/10a)								
		7月	8月	9月	10月	総収量				
平成 28年	サンチェリーピュアプラス	1,597	4,206	2,140	1,017	8,960 (100)	391 (130)	-	443	15.7
	サマー千果(TTM-117)	1,477	3,405	2,879	1,148	8,909 (100)	266 (88)	-	395	14.8
	サンチェリーピュア	1,378	4,056	2,499	999	8,932 (100)	300 (100)	-	468	16.8
平成 29年	サンチェリーピュアプラス	1,556	3,534	2,260	966	8,316 (102)	283 (117)	0.3	537	17.3
	サマー千果(TTM-117)	2,105	3,827	1,767	1,094	8,793 (108)	226 (93)	0.8	458	15.6
	サンチェリーピュア	1,574	3,746	1,839	987	8,145 (100)	241 (100)	0.7	510	16.5

(注) 1 可販果収量、可販果数及び平均1果重は、果実の重さが5g以上25g未満のものを集計
 2 ()内の数値は、対「サンチェリーピュア」比
 2 裂果発生率は、総収穫果に対する裂果の割合
 4 自根の2本仕立て苗を第1花房開花始めに定植。誘引はNターン誘引
 5 平成28年:栽植密度1,851枝/10a。定植5月24日。窒素施用量は基肥9.5kg/10a、追肥6.6kg/10a
 6 平成29年:栽植密度2,222枝/10a。定植5月19日。窒素施用量は基肥7.6kg/10a、追肥7.7kg/10a

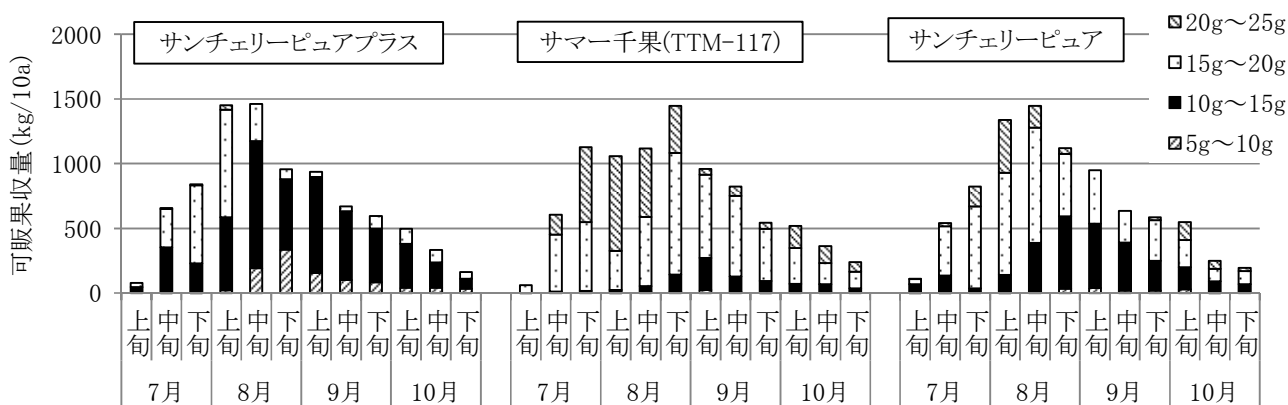


図2 旬別、果重別の可販果収量(平成28、29年青森農林総研)

(注) 1 平成28年、平成29年の平均値